ぜんせき
THE ZENSEKI
第7702号　月・水・金発行（祝日除く）　組合員 月1,728円　組合員外 月1,944円（消費税込）
7月3日（月曜日）2017年（平成29年）
発行所
全国石油商業組合連合会
東京都千代田区永田町2-17-14
電話 03-3593-5751
http://www.zensekiren.or.jp
昭和38年7月1日第3種郵便物認可 振替口座00130-4-52707

ぜんせきweb版　登録受付け中！
新規のご登録の手続きは
下記ウェブサイトでできます
http://zensekiweb.com

週仕切り指標のコスト変動と推計値（＊原油＝価格適用期間のＦＯＢ平均値）　（円／Ｌ）

適用期間	原油	ガソリン			灯油		軽油		A重油
土～金曜		指標	系列卸	TOCOM	指標	TOCOM	指標	TOCOM	指標
６／２週	▲1.73	1.2	1.5	▲2.1	0.5	▲1.9	0.6	0.0	0.3
３週	▲1.87	▲0.3	▲1.0	▲1.1	▲0.9	0.3	▲0.4	0.0	▲0.4
４週	▲0.84	▲1.0	▲1.5	▲0.5	▲1.2	▲0.4	▲0.8	0.0	▲0.9
５週	▲1.03	0.3	0.0	1.4	0.0	1.4	▲0.3	0.0	▲0.5
前週実勢値	31.57	102.0	101.3	101.4	45.2	45.3	46.5	48.0	45.8
前週標準仕切り推計	---	107.8	106.4	103.9	51.0	47.8	52.3	50.5	51.6
７／１週	0.80	0.6	▲0.5	0.4	0.7	0.7	0.5	0.0	0.2
当週実勢値予測	32.37	102.7	100.8	101.9	45.8	46.0	46.9	48.0	46.0
最近値	33.04	103.1	100.8	101.9	46.7	46.0	47.6	48.0	46.8

原油コスト0.8円上昇

JXTG統合仕切スタート、販売店に不安感も

今週の卸価格に影響する中東産原油の円建て週間コストは前週比㍑0・8円高となり、5週ぶりに反発した。欧米原油に買い戻し需要が発生したことで強含んだ。直近6月30日の東商取プラッツ・ドバイ原油は㌦建てで前日比0・19㌦高の㌭46・76㌦、円建てでは横ばいの㍑32・9円。

一方、国内ガソリン陸上スポットは下げ余地がない状況。元売出荷枠の削減で「商社などは安値玉が手薄」とされる。近畿エリアからは「卸会社の中には、ガソリンなどの外販業務をやめるところが一部に出てきた」との指摘もある。また、1日からJXTG統合仕切りがスタート。特約店・代理店向けは前日比据え置きが多く、業転格差も小さいことから系列回帰が強まる観測。ただ、販売店の一部からは「1・5円値上げ通知があった」などとする声が各地で聞かれ、その中でも市況低迷エリアでは「死活問題」との危機感が強まっている。TOCOM陸上スポットは0・2円安の102・8円と下落した。

◇　◇

特約店筋によると、コスモ先行は6月30日から前週比でガソリン据え置き、灯・軽油は各1円値下げ。

社有SS減少率高まる

系列2万4130ヵ所

3月末

2016年度末（17年3月末）の元売系列SS数は、前年同期比で577ヵ所減（2・3%減）の2万4130ヵ所に縮小した。ここ数年、系列SS数の減少ペースは鈍化傾向にあったが、2年ぶりに減少数・減少率ともに上昇した。

そのうち、元売社有SSは135ヵ所減（2・2%減）の5958ヵ所となった。減少数は前年度の59ヵ所減と比べて2倍超に膨らんだ。

元売再編が進む中、社有SSネットワークの再整備が加速しているとみられる。また、販売業者所有SSは492ヵ所減（2・4%減）の1万8172ヵ所となった。

系列別でみると、主要元売5社中、コスモが3・2%減で最も減少率が高く、これに対して、東燃ゼネが1・8%減と最も低かった。4月1日で経営統合したJXTGの占有率は57%に達した。

一方、セルフSS数は102ヵ所増の7873ヵ所に拡大。セルフは増え続けているが、ペースは鈍化しており、2年連続で200ヵ所を割った。

ただ、SS減・セルフ増の傾向が続く中、全体に占めるセルフ率も33%超に上昇している。

そのうちセルフ社有SS数は32ヵ所増の4013ヵ所で、4千ヵ所の大台を超えたが、増加ペースは大幅に鈍った。セルフに占める社有比率は51%で変わらなかった。

さらに、セルフ数を系列別でみてみると、出光29ヵ所増、東燃ゼネ26ヵ所増などで、他系列よりも増加が目立った。

2017年3月末・元売系列SS数　（単位:カ所、%）

	SS数			うち元売社有ＳＳ数			セルフ数			うち社有セルフ数		
	a	前年比	シェア	b	前年比	b/a	c	前年比	c/a	d	前年比	d/c
JXエネ	10,298	▲250	43%	2,312	▲63	22%	2,837	32	28%	1,419	▲4	50%
東燃ゼネG	3,350	▲60	14%	787	▲11	23%	1,459	26	44%	598	16	41%
ＪＸ＋東ゼ	13,648	▲310	57%	3,099	▲74	23%	4,296	58	31%	2,017	12	47%
出光	3,589	▲77	15%	1,147	▲15	32%	1,147	29	32%	734	17	64%
昭シ	3,123	▲70	13%	793	▲25	25%	998	12	32%	503	4	50%
出光＋昭シ	6,712	▲147	28%	1,940	▲40	29%	2,145	41	32%	1,237	21	58%
コスモ	2,957	▲97	12%	702	▲15	24%	1,038	2	35%	581	2	56%
キグナス	474	▲19	2%	91	▲1	19%	227	2	48%	77	0	34%
太陽	339	▲4	1%	126	▲5	37%	167	▲1	49%	101	▲3	60%
合計	24,130	▲577	100%	5,958	▲135	25%	7,873	102	33%	4,013	32	51%

カナショク16SS買収

全国展開111ヵ所に

オカモト

【帯広＝北海道】オカモトホールディングス（本社・北海道帯広市、岡本謙一社長）は、石川・富山両県で16SSを運営するカナショク（本社・金沢市）の全株式を6月30日付で取得し、完全子会社化すると発表した。

今回の買収に伴い、同社の運営SS数は合計111ヵ所となり、石油製品の年間販売量は62万㎘に達する見通し。

同社はオカモトグループで72SS、ヤマウチ（本社・高松市）で23SS、カナショクで16SSを運営し、北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州の全国でSS網を展開することになる。

東京都

ガソリン取引実態調査で判明

中小SS存続に懸念増す

東京都産業労働局がこのほどまとめた2016年度「ガソリン取引状況等に関する調査報告書」によると、直近決算の経常損益は「黒字」（28%）、「ほぼ収支均衡」（37%）、「赤字」（31%）とやや改善傾向がみられるものの（グラフ）、黒字企業はいまだ3割未満にとどまり、設備更新時期を迎えている地場中小SSも多い中、再投資可能な経営環境とは判断できない状況が続いている実態が浮き彫りになった。

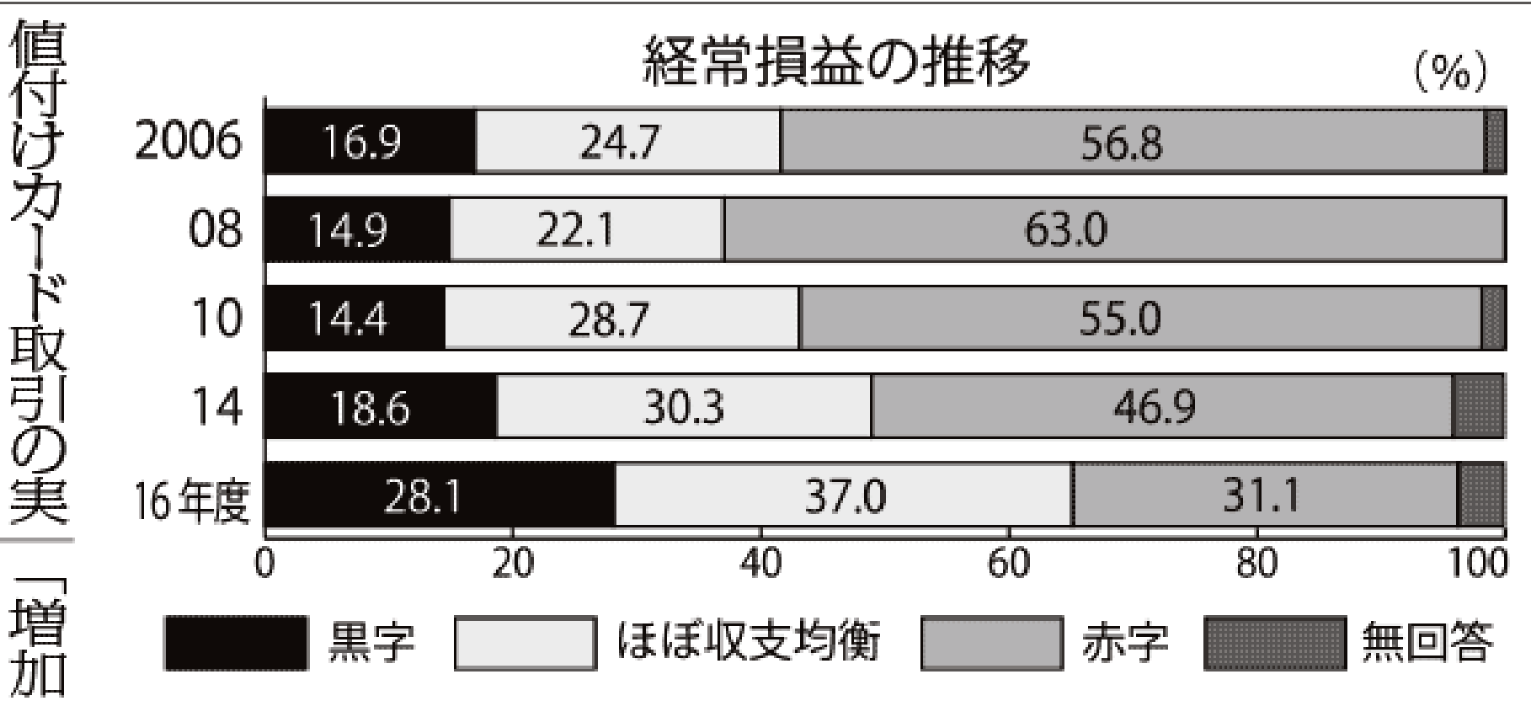
都内のガソリン販売企業405社を抽出、昨年12月～今年1月に郵送で調査を実施し、135社が回答。これによると、運営SS数は1ヵ所（76%）、2ヵ所（9%）、3ヵ所（4%）と1～3SS以内で全体の約9割を占め、前回調査時の2年前と比べてSS数が「増えた」は4%、「減った」は16%、元売系列の特約店が43%、販売店が44%、元売直営が4%、セルフ化している企業比率は17%などとなっている。

経営上、負担が重い経費としては「人件費」（67%）が過半を占めたが、「設備維持管理費」については1～3SS運営企業のみ重負担と指摘。また、事業承継の方針として「廃業」の見込みも1SS企業に集中するなど、特に小規模企業の存続に対する懸念が高まる結果となった。

一方、特に中小フルサービスSSに弊害をもたらしている発券店値付けカード取引の実態については、「取扱いあり」が7割で、全給油量に占める割合は「自社発券カード」（13%）、代行給油のうち「他の系列SSが発券」（22%）、「大口需要家等が発券」（11%）、「その他異業種が発券」（6%）など、無回答がほぼ半数を占めたものの、自社発券を含めた同カードによる給油比率が4割以上としているSSが17%にのぼった。

また、2年前に比べた同カードの取扱量は「増加」（64%）が「減少」（11%）を大きく上回っているほか、レギュラー・軽油ともに「採算が取れない」が9割弱に達した。元売との取引関係や自社顧客への影響なども含め、同カードの取扱店がジレンマに陥っている様子が判明した。

経常損益の推移



月岡社長ほか取締役を再任

出光株主総会

出光興産は6月29日、都内で株主総会を開き、月岡隆社長ら取締役の選任議案を可決した。出光は昭和シェル石油との経営統合を目指しているが、大株主である創業家はこれに反対を表明しており、今回の株主総会で月岡社長ら5人の取締役選任議案に反対すると発表していた。

論説

EMG仕切りの終焉に思う

4月以降、暫定的に続いてきたJX先行指標とEMG系列週決め仕切りが統合され、7月1日からJXTG仕切りがスタートした。長年、変遷を続けてきた元売仕切り体系は、新たなステージに入った。

特にEMG週決め仕切りの母体は、特石法廃止後の1997年から始まったエッソ石油のゾーンプライスである。そこから数えると約20年。EM、EMG、東燃ゼネラルと企業体は変わり、日決め制度が加わるなど仕切りの仕組みも変化したが、長く継続してきた。それが先週末に終焉を迎えた。

EMG週決め仕切りは事後調整がなく透明性が高いとされる。その遺伝子が今後、JXTG仕切りの中でも生き続けるかは系列を超えた業界全体の関心事だ。

これまで小売市況を混乱させる要素の1つとして、事後調整という商慣習の存在が指摘され続けてきた。事後調整は販売業者のコスト意識を麻痺させ、そこに量販指向の意識が重なることで、全国各地で廉売競争を発生させてきた。逆にいえば、事後調整のない透明な仕切り体系が生まれれば、それぞれの販売業者は仕切価格に自社にとって必要な粗利額を加算し小売価格を設定することになるため、採算度外視の価格競争は消失すると想定される。ただ、事後調整を生命維持装置的な役割にして生き残ってきた旧JX系特約店にとっては痛みを伴う変革であり、その痛みは中小販売店へも向かう。

一方、EMG仕切りを振り返ると、15年に制度変更してガソリン仕切りを事実上、陸上スポット指標プラス3円高で連動させる透明性のある仕組みにしたが、それ以前は異なる。従来から事後調整はなかったが、代理店・特約店によると仕切価格は一方的かつ高値で通知されていた時期も長く続いた。そのため、当時はEMG系から他系列・商社系への異動、さらにPB化するSSが多かったと記憶する。EMG仕切りのもと勢力を伸ばした代理店・特約店の多くには、いまも色濃く量販指向が残るという問題もある。

販売業界にとって、透明な仕切り体系は「再投資可能な経営」を実現する手段でしかない。本来の望みは、真面目に商売しているSS経営者が事業継続・継承できる市場環境を支える仕切り体系である。市場シェア50%超のJXTG仕切りには、最大公約数の販売業者が好感を持てる運用を期待したい。

エネ白書

石油産業の変化示唆

政府は先ごろ、資源エネルギー庁が取りまとめた2016年度エネルギー白書を閣議決定した。エネルギーを巡る状況と主な対策として、東京電力福島第一原子力発電所1～4号機の廃炉措置に向けた取り組みなど福島復興の進捗状況のほか、エネルギー安定供給確保に向けたJOGMEC法の改正などエネルギー政策の新展開、国内外のエネルギー制度改革とエネルギー産業の動向など最新のトピックをまとめた。

この中では、国際原油市場の動向について14年7月以降、新興国の景気減速、米国シェールオイル増産、OPECなどの高水準生産を背景に急速に下落。16年2月には03年以来の安値水準となる㌭26・21㌦を記録し、シェア維持戦略を継続してきたOPECも原油価格の長期低迷を受け、同年11月の定時総会で減産合意。ロシアなどの非OPEC産油国も同調したことを受け油価はやや上昇し、足下では㌭50㌦前後で推移しているものの、減産合意の順守状況や米シェールの生産動向などにより再下落する可能性も指摘。また、油価下落により企業体力が低迷していた石油・天然ガス開発企業も油価浮上で権益獲得や企業買収を16年以降活発化。日本でも16年11月にJOGMEC法を改正し、上流開発企業の企業買収などを通じた国際競争力の強化を支援し、生産規模日量100万㌭超の中核的企業創出を目指すとした。

一方、国内石油精製業を取り巻く環境変化については、今後も石油製品需要が減少していくことが見込まれるが、近隣のアジア地域では需要が増加し、それに伴い供給力も拡大していく見通しで、アジア地域では環境規制強化が進み、先進国との品質差が縮小する見込み。今後、石油製品の国際取引がさらに活発化する可能性を示唆した。

国内市場が縮小する中、JXエネルギーと東燃ゼネラル石油の合併や出光興産と昭和シェル石油が経営統合に先立ち業務提携を進展させるなど石油業界の再編が加速。経営統合や製油所の統合運営など、事業の効率化・合理化に向けた取り組みが進んでいる。

今後は、国内事業の合理化のみならず、アジアをはじめとした海外市場の獲得など成長分野へのさらなる進出が課題とし、オイルメジャーや中国企業などによるアジア市場進出が進む中で、日本企業も取り組みを活発化させることが必要と提言した。

5月G卸108・6円

エネ庁

資源エネルギー庁が6月30日に公表した5月の卸価格調査（消費税別）によると、前月比でレギュラー全国平均は3・4円値下がりし108・6円となった。軽油は1・5円安の54・5円、灯油は1・4円安の53・8円となった。

また、5月の全国平均インタンク価格は、軽油が1・3円安の90・7円、A重油は大口が0・6円安の58・5円、小口が0・5円安の66・6円だった。

6月上旬原油CIF37円弱

財務省

財務省が6月29日発表した6月上旬原油CIF価格は、㌦建てが前月比1・94㌦安の㌭52・25㌦となった。

円建ては原油価格が下落したものの、為替が㌦111・77円と円安で推移したため下落幅は縮小し、631円安の㎘3万6733円と3ヵ月連続で前月を下回った。（2面に5月データ）

ポンプ あ・い・ら・ん・ど

▼『縁の下の舞』はかつて大坂の天王寺で聖徳太子をしのんで演じられた舞楽を指す。舞台に上がらず人に見えないところから、だれも見てくれないところで苦労する、『縁の下の力持ち』と同じような意味で使われる▼SSでは、縁の下の舞を演じているのが計量機だと言っても異論はあるまい。全国危険物安全協会発行の「危険物と保安」（2017年春）に掲載された日本ガソリン計量機工業会の龍野廣道会長のインタビュー記事が興味深い▼日本で最初の計量機が発売されたのは大正8（1919）年ごろと言われる。最初の転換期がモータリゼーションの幕開けとなる1963年、日本メーカーが世界で初めてノンスペース型の計量機を開発した。給油ホースユニットを天井部にセット、ポンプや計量表示部を分散配置することで敷地を有効に使える画期的な製品。狭い場所でも建設が可能になりSSの建設ラッシュを陰で支えた。その後、1台で複数の油種を同時に給油できるマルチ型も製品化された▼災害対応にも力を入れている。停電時には人力や自動車バッテリーで作動できる緊急用計量機を開発。龍野会長は「火災、漏洩、コンタミ、水の混入などを防ぐ環境にやさしい施設づくり」にこれからも取り組むという。SSの〝縁の下〟で計量機はきょうも明日も舞い続ける。

きょうの紙面

2面　統合余波？ＰＢ業者揺らぐ
■ＤＡＴＡコーナー＝原油価格、石油製品先物情報、ＣＩＦ価格、石油統計速報、卸価格
3面　北海道版・帯広・飲酒運転絶滅運動／近畿版・ＳＳ過疎地深刻化
4面　九州版・南西石油・太田社長に聞く／月間ぜんせき

常時監視と常時管理

樹脂配管

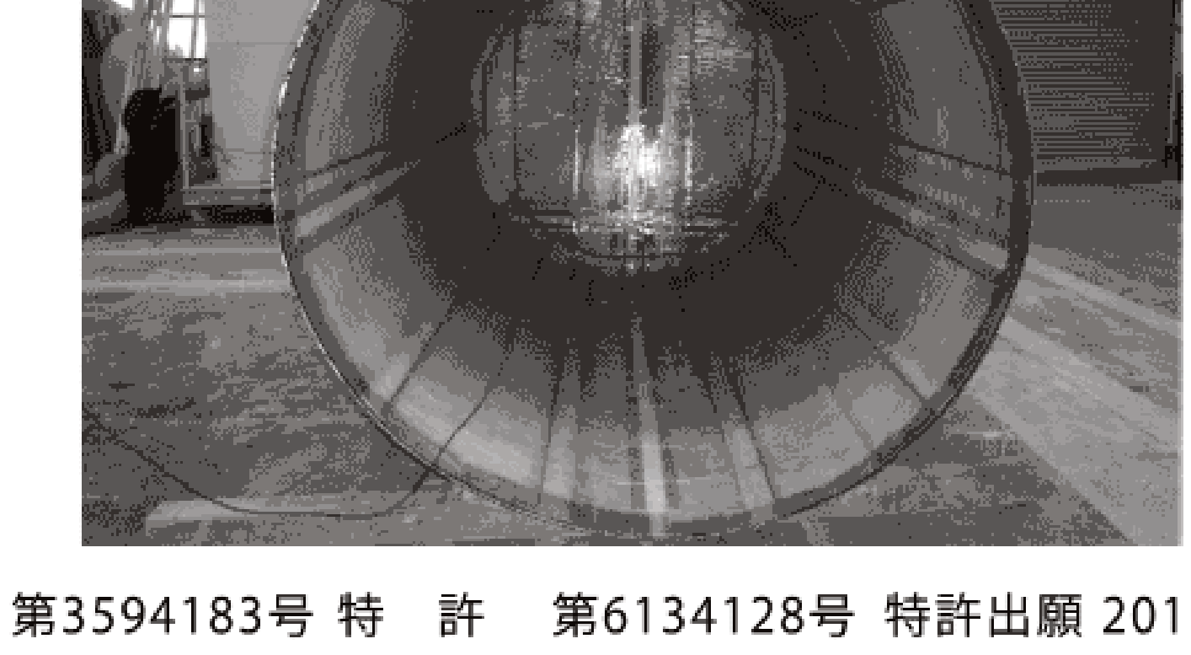
保証期間　30年
①　一重配管
②　二重殻配管

漏洩検知装置付き樹脂二重殻配管

配管の漏れの点検が不要になります
（全危協評第22号）

漏洩箇所が
ピンポイントでわかります

特　許　第4421711号　特　許　第6120431号　特許出願 2014-176033　特許出願 2014-235598
特許出願 2015-115624　特許出願 2015-213877　特許出願 2016-029607　特許出願 2017-045796
実用新案 第3183085号　実用新案 第3195379号　実用新案 第3204958号　実用新案 第3209440号

鋼製タンク内面ＦＲＰ二重殻構造

特　許　第3594183号　特　許　第6134128号　特許出願 2015-098922
特許出願 2016-029607　特許出願 2017-045796　実用新案 第3196696号
実用新案 第3199105号　実用新案 第3204958号　実用新案 第3209440号

環境づくりのトータルプランナー　株式会社サンフロイント
東京都文京区本郷1丁目20番3号
E-mail：info@sanfreund.co.jp
電話：03-3818-7868
Fax：03-3818-7846

統合余波？PB業者揺らぐ

JXTGが業転に影響

全国各地のPB業者に異変が起きている。これまで市場を安値拡販で走り抜けてきた複数のPB業者が買収されるとの噂が浮上、かつての「無印」から「PB」へSSの運営形態を変えたとも言われるPB業者のSSで、商社のサインポールが掲げられるなど事態が急変し始めた。その背景として「JXTGの影響」と指摘する業者もいる。

″選択の時代″を象徴

地場大手のPB業者のSSが買収されるという噂が、ここにきて商社間を駆け巡っている。しかも、それが1社にとどまらず、複数のPB業者に浮上、商社からも「信じられない」との声が上がる。また「市場を変えた」といわれ、最盛期には数年で7SSを県内各地にオープンしたPB業者の一部SSが、商社系のサインポールを掲げ始めたことが確認されている。

市場では一気にPBSSの動きが目立ちはじめているが、「要因は業転市場の変質。JXTGという巨大元売が誕生したことが要因だろう」と商社は指摘する。複数の見積もりで最も安い業転玉を仕入れるというこれまでのビジネスモデルが、JXTGとなったことで思わぬ方向に流れているようだ。

「いま市場では旧TG側の仕入れをしてきた石油卸に枠が設定され、結果的に高く品薄感が強い。見積もりとはいえ、旧TG玉に頼った形のPBは苦境に立っている」と商社は指摘する。結果、旧TG以外にメインパイプを持つ業転業者は優位となり、安さで旧TG玉を多く仕入れてきたPB業者は、高値での仕入れと安定感のない状態に陥る可能性が出ているという。

こうした事態を感じるPB業者は、「元売寡占化による弊害の象徴的な状態」と憤りを隠せないが、商社の責任者は「いわば時代の流れ。供給元の選択や仕入れ方法で経営が浮沈することは、JXとTGが合併すると聞いた時から予測できた」と冷静に受け止めている。

気象台と燃料供給協定

レーダーの停電対策で　SSで車両給油も

福井

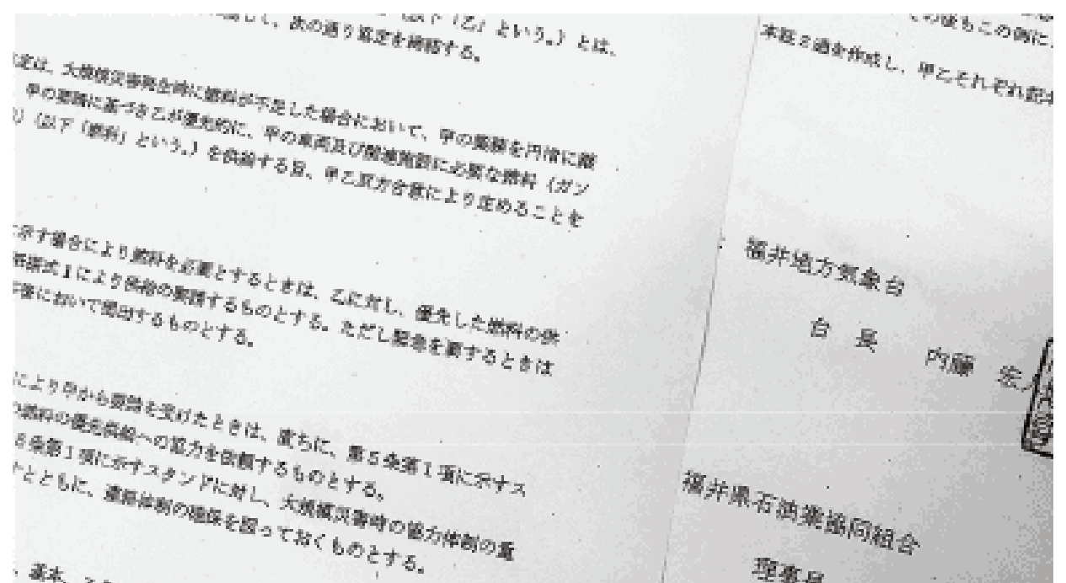
【福井】気象レーダーを災害時でも作動させ続けるための燃料供給協定が、福井石商（井田浩志理事長）と福井地方気象台との間でこのほど交わされた。変化の激しい日本海側の気象予想や注意報・警報の発表などに欠かせないレーダーを停止させないため、気象台の自家発電装置に組合員がローリーで配達し供給する内容の協定で、全国的にも珍しい。

気象データを観測する気象庁のレーダーは全国20ヵ所にある。このうち山陰地方から新潟までの日本海側をカバーするのが福井の「東尋坊気象レーダー観測所」。景勝地の東尋坊から内陸500㍍ほどの通称・ひまわりの丘に、地上4階建てで上部をドームで覆うパラボラアンテナのレーダー基地だ。通常は電気で機能が働き、停電時にはディーゼル稼働の自家発電装置があるが、災害時の長時間停電対策として同石商に協定締結を申し出てきた。

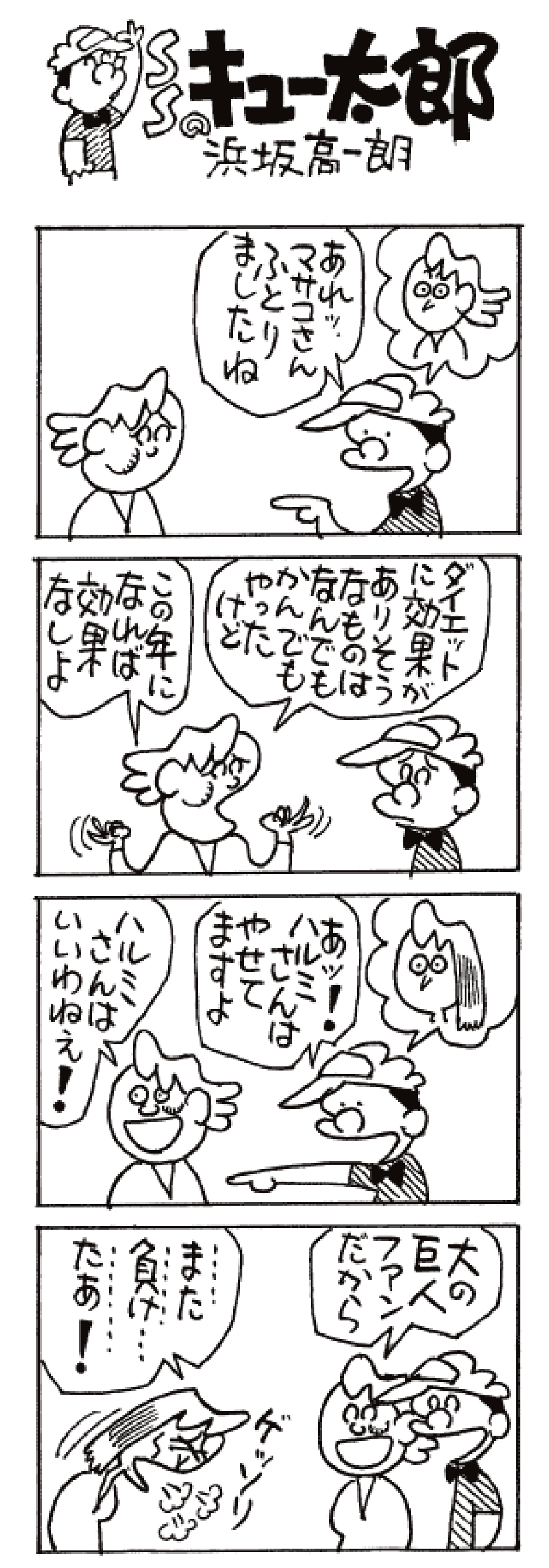
東尋坊レーダーの観測範囲には″原発銀座″といわれるほどいくつもの原子力発電所があり、現在そのほとんどが稼働していないとはいえ、気象観測が極めて重要な地域。それだけに、調印への両者の協議は集中的に短期間で進行。同石商は地元の中核SSなど、対応可能なSSと細部を詰めたうえで気象台側と合意した。協定書には気象台の車両などSSでの燃料供給も盛り込まれた。

福井気象台の大須光知夫次長は「停電してもレーダーがすぐに止まる訳ではないが、災害時の長時間停電が心配だっただけに、これで一安心。石油組合の協力に感謝したい」と締結を喜び、また、同石商の河部秀範専務理事も「皆さんの素早い対応で調印できた。官公需の受注拡大にさらに努力したい」と話している。

福井石商が福井地方気象台と締結した災害時の協定書



災害時でも組合員の軽油配達で発電機を動かす東尋坊気象レーダー観測所


キュー太郎
浜坂高一朗
あれッ、マサコさんふとりましたね
ダイエットに効果がありそうなものはなんでもやったけど
この年になれば効果なしよ
あッ！ハルミさんはやせてますよ
ハルミさんはいいわねぇ！
大の巨人ファンだから
また負け……たあ！
ゲッソリ

明日への技術と信頼のサービス
TATSUNO

北石連に感謝状

災害時対応活動を評価

道経産局

北石連の伊藤豊会長は6月28日、北海道経産局で行われた感謝状贈呈式に出席し、児嶋秀平局長から感謝状を授与された。

この感謝状は、北海道経済の活性化や産業の発展に寄与したり、同局の施策に協力した企業や団体に贈られるもので、今回は道内9企業・団体が対象になった。北石連は、各自治体と地方石協との災害時協定締結の拡大に取り組んだことと、同局と自衛隊が主催する「災害時燃料供給合同支援訓練」に協力するなど、災害時における円滑な燃料供給確保の体制構築に尽力していることが認められた（次回北海道版に詳報を掲載予定）。

児嶋局長㊧から感謝状を受ける伊藤会長

夏休み公開映画とコラボキャンペ

出光

出光興産は1日から8月31日までの期間限定で、系列SSにおいて8月4日公開される映画・トランスフォーマー（最後の騎士王）とのコラボレーションキャンペーンを開催する（写真）。抽選でトランスフォーマーグッズや出光キャッシュプリカ（1千円分）が当たる抽選会を実施。給油2千円以上で1口分、オイル・バッテリー交換で各2口分となる。応募方法は、キャンペーンサイトにアクセス後、エントリー画面にて必要事項記入のうえ、購入レシート画像を添付、または購入レシートを系列SSに設置されている応募用紙に貼り付け、必要事項記入のうえ郵送する。

期間中、系列SSではノボリや大型POPなどでPRを展開していく。

IDEMITSU
パワーチャージキャンペーン

---

⑦小さなミスやルール違反も見過ごせば事故に

SS事故を引き起こす様々な要因を考えてみよう

講師　佐藤　哲治　氏（ジャパンリスクソリューション主席コンサルタント）

再確認で″形骸化″防げ

小さなミスまで口うるさく注意しては、スタッフが居つかないと思うことはありませんか？これは間違いだと思います。箸の上げ下ろしまで言われてはスタッフもたまりませんが、お客様に向かい合っているのですから、小さなミスといえども看過するのは危険です。

例えば、あるスタッフがヒモ付キャップを扱う時にキャップをボディーにぶつけるのです。そのたびに音がするのでお客様に気づかれます。そのうち、あるお客様から給油口周りのキズはキャップによるものだとクレームが付きました。

実際にはキャップが当たっただけでキズは付きませんが、打音はキズを連想させるし、「当たってもキズは付けていません」と抗弁することはしにくいでしょう。

ある女性スタッフが指輪をしたまま洗車をし、そのことをとがめられてキズクレームに発展しました。店長は注意をしていましたが、指がむくんで抜けないというので見過ごしたのです。抜けない指輪はないのですから、業務命令で措置しておくべきでした。

またあるスタッフは、1人でピット室中2階のタイヤの上げ下ろしをハシゴを使ってやっていました。ハシゴを使う作業は2人で行うことがルールでしたが、店長も見過ごしていました。ある日、そのスタッフがハシゴから落下して負傷しました。このルールは皆が知っていましたが、だれも守っていなかったのです。

何年も事故がなければ、ないことが当たり前となるのでルールが形骸化するのです。店長が赴任する前からルールは無視されていたのですから、店長は自分だけの責任ではないと思うかもしれませんが、そうはなりません。ルール不順守で事故が起きれば、管理者としての責任は現店長が負わなくてはなりません。前任店長は関係ないのです。ルールを再確認しておきましょう。

消耗戦の果て　大分で採算機運

【大分】大分県内の市場が安定化する兆しを見せている。需要減が続く中で乱売競争から脱却し、″生き残り″のためにも収益を確保しようという姿勢が強まっているためだが、一部では低価格店との価格差が縮小しない地域もある。

大分市と隣接した別府市を中心とする地域では、かつては価格競争が激しく、低価格で顧客を奪い合い「ただでさえ減販が続いているのに、低価格で利益を得られない状態が続けば共倒れになってしまう」という″悲鳴″が聞こえていた。

その中で一部のSSは過当競争から一線を画し、「周辺とは関係なく適正な利益を確保できる価格」を打ち出し、″量だけに頼らない経営″を目指す動きが出てきた。

大分市、別府市やその周辺地区ではレギュラー134～8円のSSが大半。同地区では金～火曜日前後に安く販売する「週末値引き」が多いが、それでも2円程度にとどまり、大きく値崩れするケースは見られなくなった。

ただ、両市の周辺地区や山間部、宮崎、福岡との県境に近い地域では極端な価格競争が続いている地域も点在する。この中には過疎が進み需要が減っている地域もあるために、状況はさらに深刻になっている。

若手ライダー発掘へ鈴鹿でロードレース

出光

出光興産がメインスポンサーを務める「IDEMITSU ASIA TALENT CUP」の2017年シーズン第3戦が先ごろ三重県の鈴鹿サーキットで開催された（写真）。

同カップは世界トップレベルで戦い、活躍できる若手ライダーの発掘を目的に14年に創設され、日本をはじめとするアジア・オセアニア地域出身で13～21歳までのライダーがエントリーし、本格的なロードレース、ワンメイクカップに参戦している。

1シーズン全6大会開催され、アジアを代表するサーキット場でのレース経験を通じライダーの育成を図る。

国内では10月15日にも、モトGPと同会場であるツインリンクもてぎ（栃木県茂木町）で第5戦が行われる。

MITSUBA
CalSO

恒例の『夏休み科学バスツアー』開催へ

JXTGエネ

JXTGエネルギーはこのほど、グループの製油所・製造所・石油基地で、各地の新聞社と共催し、小学4～6年生と保護者のペア40組80人を対象とする社会科見学プログラム「なつやすみ科学バスツアー」を今月21日～8月4日にかけて、10ヵ所で開催すると発表した。

毎年好評を得ているツアーで、見学や実験教室への参加を通じ、石油製品の製造工程やエネルギー資源の大切さを楽しく学ぶことができ、夏休みの自由研究などに役立つ内容。同社施設に加え、地元の科学館や水族館なども見学する。

昨年は714人が参加し、「洋服や道路のアスファルトまで石油でできているとは思わなかったので、びっくりした」などの感想が寄せられた。

DATAコーナー

■石油先物市場・6／30

△値上げ、▲値下げ◇ストップ高、◆ストップ安、単位：￥／KL

東京商品取引所（京浜海上：1枚＝50KL）　中京石油市場（伊勢湾油槽所：1枚＝20KL）

東京 16：30現在	前日比	限月	中京 16：30現在	前日比
（前日出来高2,588枚）		ガソリン	（前日出来高22枚）	
48,050	▲410	⑧限月	48,300	▲100
47,340	▲210	⑨限月	47,800	▲100
47,060	▲30	⑩限月	46,100	0
46,950	▲110	⑪限月	46,610	0
46,790	△100	⑫限月	46,500	0
46,800	△160	①限月	44,600	0
（前日出来高826枚）		灯油	（前日出来高-枚）	
46,030	△80	⑧限月	46,000	0
45,990	△210	⑨限月	46,000	0
46,740	△90	⑩限月	46,100	△600
47,750	△170	⑪限月	45,700	0
48,280	△160	⑫限月	47,600	▲250
48,250	△90	①限月	46,000	0
（前日出来高-枚）		軽油		
48,000	0	⑧限月		
48,000	0	⑨限月		
48,000	0	⑩限月		
48,000	0	⑪限月		
48,000	0	⑫限月		
48,000	0	①限月		

原油指標

			前日比
国内指標	$／B	46.38	(△1.05)
	￥／KL	32,966	(△643)
WTI	$／B	44.93	(△0.19)
	￥／KL	31,935	(△37)

■原油・石油製品輸出入CIF価格・5月（単位￥／㍑）

	原油	揮発油	灯油	軽油	重油
輸入	37.76	38.03	44.62	47.48	41.62
前月比	△0.14	▲0.21	▲4.53	△0.23	▲0.13
輸出	—	50.27	42.84	43.52	35.06
前月比	—	△3.22	▲2.16	▲1.60	▲2.64

■石油統計速報・5月

（単位：千KL、％）

	ガソリン	灯油	軽油	A重油	7油種計
月初在庫	1,831	1,160	1,632	788	9,197
生産	4,401	863	3,261	871	13,385
前年比	97.5	82.3	100.3	96.7	93.1
輸入	79	-	26	6	2,878
前年比	140.3	-	90.7	107.3	118.4
販売	4,315	573	2,703	816	13,255
前年比	99.5	91.0	105.7	93.1	100.7
月末在庫	1,890	1,390	1,502	786	9,485
前年比	107.3	85.2	96.4	102.4	96.2

■県別SS卸価格調査・5月

（単位：￥／L、↑値上げ、→同値、↓値下げ）

	レギュラー	軽油	灯油		レギュラー	軽油	灯油
北海道	109.4 ↓	54.9 ↓	52.9 ↓	滋賀	108.6 ↓	54.5 ↓	54.0 ↓
青森	108.5 ↓	54.3 ↓	52.6 ↓	京都	107.9 ↓	53.9 ↓	54.2 ↓
岩手	109.0 ↓	54.6 ↓	53.2 ↓	奈良	108.2 ↓	54.3 ↓	53.4 ↓
宮城	108.8 ↓	54.2 ↓	53.1 ↓	大阪	107.3 ↓	53.3 ↓	53.3 ↓
秋田	109.2 ↓	54.9 ↓	53.2 ↓	兵庫	108.0 ↓	54.3 ↓	53.9 ↓
山形	109.4 ↓	54.7 ↓	52.7 ↓	和歌山	108.8 ↓	54.5 ↓	54.3 ↓
福島	108.5 ↓	55.4 ↓	53.8 ↓	鳥取	109.7 ↓	55.4 ↓	54.3 ↓
茨城	109.1 ↓	55.3 ↓	54.3 ↓	島根	109.2 ↓	54.9 ↓	54.2 ↓
栃木	109.4 ↓	54.7 ↓	53.9 ↓	岡山	107.7 ↓	53.8 ↓	53.0 ↓
群馬	109.7 ↓	55.8 ↓	55.2 ↓	広島	108.6 ↓	54.1 ↓	53.9 ↓
埼玉	108.1 ↓	54.1 ↓	53.4 ↓	山口	108.0 ↓	53.7 ↓	53.4 ↓
千葉	108.1 ↓	53.9 ↓	53.4 ↓	徳島	108.9 ↓	55.4 ↓	55.1 ↓
東京	108.2 ↓	54.0 ↓	54.1 ↓	香川	107.9 ↓	54.2 ↓	53.5 ↓
神奈川	107.6 ↓	53.8 ↓	53.6 ↓	愛媛	108.0 ↓	54.3 ↓	53.8 ↓
新潟	109.0 ↓	55.2 ↓	53.7 ↓	高知	108.9 ↓	54.7 ↓	54.8 ↓
長野	110.1 ↓	56.0 ↓	55.1 ↓	福岡	109.0 ↓	55.2 ↓	54.3 ↓
山梨	110.6 ↓	56.1 ↓	55.1 ↓	佐賀	108.4 ↓	54.7 ↓	53.8 ↓
静岡	109.3 ↓	55.3 ↓	55.1 ↓	長崎	109.4 ↓	55.3 ↓	54.3 ↓
愛知	107.5 ↓	53.3 ↓	52.9 ↓	熊本	108.7 ↓	54.5 ↓	54.1 ↓
岐阜	108.0 ↓	54.1 ↓	53.2 ↓	大分	108.3 ↓	54.4 ↓	54.0 ↓
三重	108.1 ↓	54.3 ↓	53.6 ↓	宮崎	108.1 ↓	53.9 ↓	52.7 ↓
富山	108.8 ↓	54.4 ↓	53.2 ↓	鹿児島	109.3 ↓	55.1 ↓	54.9 ↓
石川	108.6 ↓	54.6 ↓	53.8 ↓	沖縄	105.1 ↓	56.6 ↓	55.2 ↓
福井	110.0 ↓	56.2 ↓	55.5 ↓	全国	108.6 ↓	54.5 ↓	53.8 ↓

今週の指針

7月3日～9日　強運日＝3、8、9　吉方位＝東、南西

運命アドバイザー　北　秀一

1月生	運気まずまずで好機もある。自信持って行動し結果吉。愛情強い。
2月生	情勢安定し好機もある。積極的に行動して成果上がる。金運普通。
3月生	運気に波あるがほぼ安泰だ。軽率な行動は慎もう。愛情運不安定。
4月生	情勢不安定だが前途有望。積極的に行動し結果吉。金銭運も強い。
5月生	好不調の波あり苦労しよう。軽率な行動は慎もう。愛情運不安定。
6月生	情勢不安定だが好機はある。無理な行動は慎もう。金銭運も弱い。
7月生	運気安定せず落ち着かない。冷静な行動を心がけよ。愛情運普通。
8月生	情勢まずまずも苦労しよう。軽率な行動は禁物。金運落ち着かぬ。
9月生	運気落ち着かず不安定だ。冷静な行動を心がけよう。愛情運弱い。
10月生	情勢まずまずでチャンスある。あせらず冷静に行動だ。金運普通。
11月生	運気に波あり落ち着かない。軽率な行動は慎もう。愛情運不安定。
12月生	情勢に波あり苦労する。無理な行動せず冷静に当たれ。金運弱い。

月生早見表

1月生＝1月5日～2月3日まで
2月生＝2月4日～3月4日まで
3月生＝3月5日～4月4日まで
4月生＝4月5日～5月4日まで
5月生＝5月5日～6月4日まで
6月生＝6月5日～7月6日まで
7月生＝7月7日～8月6日まで
8月生＝8月7日～9月6日まで
9月生＝9月7日～10月7日まで
10月生＝10月8日～11月6日まで
11月生＝11月7日～12月6日まで
12月生＝12月7日～1月4日まで

TATSUNO
4
2017円
132 円/L
15.28 L
DIESEL
PREMIUM
REGULAR
EcoStage D70S

TATSUNO RESPONSIBILITY
TATSUNO
In Innovation, In Reliable Services
環境対応型SSのご提案
新機能を開発した先駆者としての責任。
私たちは4年前に世界で初めて、給油時に排出されるガソリンベーパーの液化回収機能付き計量機を発売。
タツノはこれからも、環境保全、給油の安全性、経済性への貢献を通じてより良きパートナーとなるために、さらなる努力を重ねてまいります。
ベーパー液化回収機能付計量機「タワーNX D70S」「サニーNX D70S」
ベーパー液化回収装置「エコステージL100」
「経営安定化促進支援事業」対象製品
株式会社タツノ　本社／〒108-8520 東京都港区三田三丁目2番6号　http://www.tatsuno.co.jp/　Tel.050-9000-0567（営業本部営業部）

北海道

北海道支局
011（822）8117
（札幌市豊平区平岸1条6-3-47 北海道石油会館）

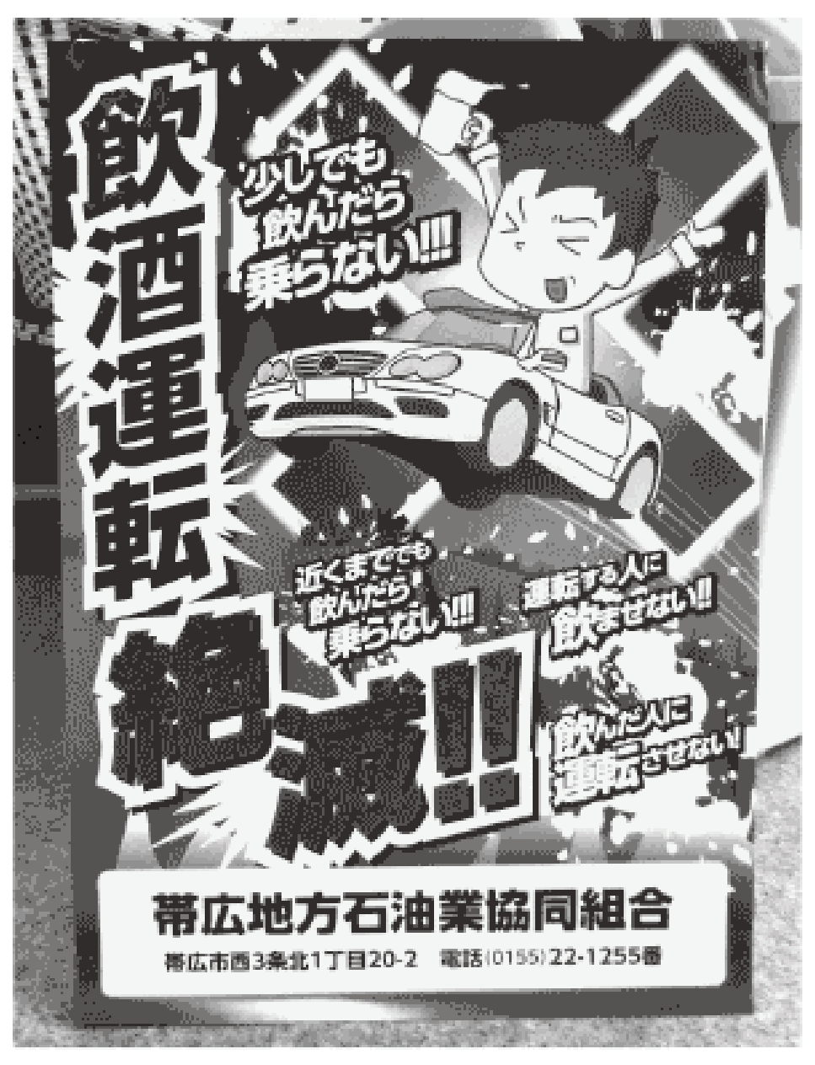
飲んだら乗らない!!

帯広・新規事業に「飲酒運転絶滅運動」

店頭でチラシ配布しPR

ドライバーにチラシを手渡して説明する高橋理事長

平成29年度 事業計画
飲酒運転絶滅運動
帯広地方石油業協同組合


飲酒運転
少しでも飲んだら乗らない!!!
近くまででも飲んだら乗らない!!!
運転する人に飲ませない!!
飲んだ人に運転させない!
絶滅!!
帯広地方石油業協同組合
帯広市西3条北1丁目20-2　電話(0155)22-1255番

ノボリもフィールド外に巡らせ（右）、サービスルームではポスターでアピール（左）

今年度の事業計画に、「飲酒運転絶滅運動」を新たに盛り込んだ帯広地方石協（高橋勝坦理事長）は先ごろ、「飲んだら乗らない」をドライバーに徹底させることを目的に、SS店頭での啓発活動に初めて取り組んだ。

2014年6月に発生した小樽での海水浴帰りの女性4人死傷事故、翌年7月に起きた砂川での一家5人死傷事故をきっかけに、北海道では「飲酒運転根絶条例」が15年11月に成立。飲酒運転による悲惨な事故をこれ以上起こさせないための運動が、各地で積極的に行われるようになっている。

帯広石協は今年度の新規事業に「飲酒運転絶滅運動」の展開を掲げており、初めての啓発活動を帯広市内の北海道カーオイル大通5丁目SS（コスモ系）で実施した。

冒頭、高橋理事長が帯広には周辺の町村からも飲食に訪れる人が昔から多く、かつては飲酒運転で地元に帰る人も見られた地域事情を説明したうえで、「いまは飲酒運転による大きな事故はないが、新聞にも載らないような小さな事故は依然として多い。飲酒運転する人も必ずどこかのSSで給油している訳であり、我々業界が率先して『絶滅運動』に取り組まなければならない」と述べた。

この後、同理事長と高井哲夫、佐藤浩基両理事の3人がそれぞれ、給油に訪れたドライバーに「少しでも飲んだら乗らない!!」などと訴えるチラシを手渡し、飲酒運転を絶対にしないよう呼びかけた。

全道1／3以上がSS過疎地

エネ庁調査

資源エネルギー庁がこのほど発表した「市町村別に見るSS過疎地の状況」（2017年3月31日現在）によると、SSが3ヵ所以下しかない自治体は道内では62町村で、前年同期と同数だった。全道179市町村の3分の1以上が「SS過疎地」となっている。全国では前年から1ヵ所増えて12町村になったSSがゼロの町村は、北海道にはまだない。1ヵ所のみの町村は8町村、2ヵ所の町村は23町村、3ヵ所の町村は31町村で、いずれも前年から変化はない。

SS数が3ヵ所以下の道内町村は次の通り（カッコ内は管轄振興局）。

▽1ヵ所・8町村＝木古内町、神恵内村、赤井川村（以上、後志）、上砂川町、月形町、秩父別町、北竜町（以上、空知）、初山別村（留萌）

▽2ヵ所・23町村＝新篠津村（石狩）、島牧村、寿都町、ニセコ町、真狩村、留寿都村、京極町、泊村、古平町（以上、後志）、浦臼町、沼田町、幌加内町（以上、空知）、鷹栖町、比布町、占冠村、音威子府村（以上、上川）、幌延町（宗谷）、津別町、置戸町、滝上町、西興部村（以上、オホーツク）、陸別町（十勝）、鶴居村（釧路）

▽3ヵ所・31町村＝知内町、鹿部町、江差町、厚沢部町（以上、渡島）、黒松内町、喜茂別町、仁木町（以上、後志）、奈井江町、新十津川町、雨竜町（以上、空知）、東神楽町、愛別町、東川町、上富良野町、中富良野町、和寒町、剣淵町、下川町、中川町（以上、上川）、小平町、苫前町、遠別町（以上、留萌）、猿払村、中頓別町、礼文町、利尻町（以上、宗谷）、小清水町（オホーツク）、豊浦町、壮瞥町、厚真町（以上、胆振）、更別村（十勝）

灯油全道平均 0・16円下落

道消費者協会・6月

道消費者協会が6月初旬に調査した灯油・ガソリン価格調査の結果（札幌、函館などは除く）によると、灯油（100㍑以上の宅配）の全道平均価格は㍑77・52円で、前月調査から0・16円値下がりした。

前年同月と比べると17・79円の値上がり。全道調査店502店の最多価格帯は76円と78円（各86店）。最高値は90・7円（1店・稚内）、最安値は58・8円（1店・小樽）。

ガソリンの全道平均価格はフル（265店）が131・9円で0・49円値下がりした。前年同期と比べると11・32円の値上がり。最多価格帯は132円（63店）。最高値は147円（1店・遠軽）、最安値は117・8円（1店・小樽）。

セルフ（85店）は127・97円で0・33円値上がりした。前年同期と比べると11・31円の値上がりとなる。最多価格帯は129円（31店）。最高値は134円（1店・斜里）、最安値は120円（1店・旭川）。

札幌で自動運転テーマに講演会

HAIA

北海道自動車産業集積促進協議会（HAIA）は先ごろ、日本自動車研究所（JARI）ITS研究部の谷川浩部長を招き、「自動運転の技術開発動向とJARIの取組み」をテーマとした講演会を札幌で開催した。

谷川氏は、同研究所が茨城県内に開設した城里テストセンターで行われている自動車の自動走行実験の現状を説明したほか、近い将来に実現可能なビジョンとして駐車場内での自動駐車（自動バレーパーキング）などを紹介した。

今夏も無理ない節電を

道経産局に要請

道経産局は、今夏の電力需給については昨夏以上に十分な供給予備力が見込めることから、引き続き無理のない範囲での節電を道民や事業者に要請している。

北海道電力は、今夏の供給予備力については率にして14・4%を確保でき、最低限必要な3%以上を上回ると見通している。

ただし、供給予備力には継続的に定着している節電の効果を見込んでいる数字であり、今後においても継続的な節電が必要になっていくことを強調している。

近畿

近畿支局
06（6362）2917
（大阪市北区南森町1-4-19 サウスホレストビル5階）

SS過疎地問題 見えない解決策

SSゼロ増え6町村に

依然として続く厳しい経営環境によって廃業を検討する地場SSは後を絶たず、近畿2府4県内でもSS過疎地問題は深刻化している。住民の生活環境悪化を懸念する自治体により公営SS建造などの施策でかろうじて石油流通網は維持されているが、利益確保に向けた施策の必要性がより一層求められそうだ。

地場SS廃業により公営SS急増の可能性も
（写真は和歌山県すさみ町の町営SS）

畿内の2016年度末SS過疎地数は前年度と比較して40市町村と同数ではあるものの、SSが1ヵ所もない町村は1村増の6町村となった。畿内の卸業からは「予想よりも少ないという印象だ。納入先といろいろ話すが、やめたがっている地場SSは多い。もっと増えてもおかしくない」と指摘する。

自治体側の危機意識も強い。住民の生活環境を維持するために17年に入り、公営SSが2月16日には和歌山県すさみ町、4月3日には奈良県川上村と相次いで開設した。いずれも自治体がSSの運営再開を主導している。

自治体関係者は「SSだけでなく、人口減少の影響で地域を拠点にビジネスを展開する事業者はこれからも厳しくなり、自治体が事業を引き継ぐ事例は増えていくのではないか」との見通しを示す。

SS業界は自動車の燃費改善などによる需要減少も加わって厳しさが増す一方だが、畿内の販売店社長は「人口減少のように大きな問題だと、燃料油のマージン確保だけでは限界ではないか。町民だけでなくSSを含めた商業施設をまるごと移転するといった大胆な施策を打ち出さないと解決は難しいのではないか」と指摘する。

各地油政連総会あいさつ

今年度の近畿2府4県で行われた石油政治連盟の通常総会は、6月6日に開かれた近畿支部で終了した。各地の油政連会長の挨拶要旨は次の通り。

中村彰一郎・油政連近畿支部支部長　全国油政連は昨年度の総会で西尾恒太新会長へと新体制になった。住民拠点SS整備やVOCの自主規制など、活動の成果を発揮しているのではないか。油政連会費の値上げには理解と協力をお願いしたい。元売の集約が需給適正化に効果を発揮してSS減少に歯止めをかけることにつながってほしい。

山縣弘明・和歌山油政連会長　経営環境が変化する中、我々自身が考えなければいけないのはマージンの適正化、持続可能な経営環境の構築だ。この5年間でガソリン需要は減少していく。SSはエネルギー供給の最後の砦として地域の中で必要不可欠な存在なので、我々自身も自負し、誇りにして、その責任感を強く抱きながら業界の発展に貢献していくべきだ。

大阪は4油種前年割れ

4月販売

近畿経済産業局がこのほど発表した4月の管内の石油製品販売量によると、揮発油は滋賀で2%減の4・9万㌔㍑、大阪で3%減の19・6万㌔㍑、兵庫で5%減の13・4万㌔㍑と減販したのに対して、京都が4%増の5・8万㌔㍑、奈良が4%増の3・7万㌔㍑、和歌山が2%増の2・8万㌔㍑と好調だった。

灯油は滋賀が16%増の0・6万㌔㍑、12%増の0・4万㌔㍑、兵庫が1%増の1・6万㌔㍑、奈良が23%増の0・3万㌔㍑、和歌山が9%増の0・4万㌔㍑と好調だが、大阪のみ不調で1%減の2・0万㌔㍑。

軽油では、大阪が4%減の14・1万㌔㍑、和歌山が2%減の1・3万㌔㍑と苦戦する一方、滋賀が6%増の2・8万㌔㍑、京都が2%増の2・9万㌔㍑、兵庫が1%増の9・5万㌔㍑、奈良が4%増の1・4万㌔㍑と増販している。

A重油では、滋賀のみ35%増の0・5万㌔㍑だが、京都が3%減の0・4万㌔㍑、大阪が12%減の2・5万㌔㍑、兵庫が6%減の2・7万㌔㍑、奈良が11%減の0・2万㌔㍑、和歌山が21%減の0・7万㌔㍑と各府県によって明暗が分かれた。

近畿2府4県石油製品販売実績（4月）

単位：千㌔㍑、カッコ内は前年比

	滋賀	京都	大阪
ガソリン	49（▲2%）	58（4%）	196（▲3%）
灯油	6（16%）	4（12%）	20（▲1%）
軽油	28（6%）	29（2%）	142（▲4%）
A重油	5（35%）	4（▲3%）	25（▲12%）
	兵庫	奈良	和歌山
ガソリン	134（▲5%）	37（4%）	28（2%）
灯油	16（▲30%）	3（23%）	4（9%）
軽油	95（1%）	14（4%）	13（▲2%）
A重油	27（▲6%）	2（▲11%）	7（▲21%）

レギュラー9.8%増

NEXCO西日本・4月

NEXCO西日本によると、管内で4月の石油製品販売量は9・8%増の3万6634㌔㍑となった。内訳だとレギュラーガソリンは0・6%増の9690㌔㍑、ハイオクは3・2%減の1597㌔㍑、軽油は14・7%増の2万5347㌔㍑となった。SS数は78ヵ所となり、1SSあたりの燃料油販売量は469・7㌔㍑で、ガソリンは124・2㌔㍑、軽油は325・0㌔㍑となる。洗車を含めた売上高は28・0%増の40・1億円。

三田西IC補修工事で車線規制

NEXCO西日本

NEXCO西日本関西支社は舞鶴若狭自動車道三田西インターチェンジ（IC）の舗装補修工事を7月3日～8日の間、午後8時～午前6時に行う。IC夜間閉鎖に合わせて、上下線本線走行車線規制も実施する。

同社は期間中の迂回ルートとして①大阪方面は、三田西IC付近～県道720号～県道95号～神戸三田IC（約7㌔㍍、約9分）②広島方面へは、三田西IC付近～県道720号～県道95号～県道17号～吉川IC（約17㌔㍍、約25分）③舞鶴方面は、三田西IC付近～県道92号～県道141号～県道570号～国道176号～丹南篠山口IC（約29㌔㍍、約43分）を推奨しており、期間中、該当する道路沿いでは自動車の通行量が増加する可能性がある。

市バス軽油2Q 中川物産が落札

神戸市交通局

神戸市交通局が先ごろ実施した市バス向け軽油（7～9月）の落札結果によると、2ブロックとも落札業者は中川物産となった。

第1ブロックの3営業所（魚崎、石屋川、中央）で使用する830㌔㍑分の落札金額は㍑78・8円。第2ブロック（松原、落合、垂水、西神）の1470㌔㍑分は㍑78・6円となった。

最新 New Model Carwash MIYABI ドライブスルー洗車機 雅（みやび）
洗浄力UP! ランクUP!!
最新コーティングの仕上がりに満足し、
洗車ポイントカードでリピートを促す。
目指したのは洗車による生涯顧客の創造です。
洗浄力UP　汚れに強くボディに優しい洗浄
洗浄動作を刷新!
ブラシに最適な制御で
洗浄力がさらに向上!!
ブラシの優しさが確認されました
「サイフレックスブラシⅡ」は第三者公的機関にて洗浄試験を行い、その優しさが確認されました。
ランクUP　バディカードシステム搭載!　業界初
洗車でポイントが貯まる!
新洗車会員システム!!
ブロンズ会員価格 ▶ 規定のポイントが貯まると**シルバー会員**にランクアップ ▶ シルバー会員価格 ▶ 規定のポイントが貯まると**ゴールド会員**にランクアップ ▶ ゴールド会員価格
洗車生涯顧客を創造する新会員システム!!
※バディカードシステムはオプションです。
Beauty ビユーテー株式会社　SINCE 1965
機械遺産認定の信頼と洗車機累計販売台数世界 NO.1 の実績
本社 名古屋市港区木場町2番地 TEL 052-692-2101（大代表）
ビユーテー 検索　http://www.beauty.gr.jp
ビユーテー本社事業所は環境管理に関する国際標準規格 ISO14001 の認証を取得しています。
■Network of the Beauty
北海道支店　仙台支店　上信越支店　埼玉支店　東京支店　千葉支店
東海支店　北陸支店　大阪支店　広島支店　福岡支店　南九州支店

九州

九州支局（福岡市博多区下呉服町1-15 ふくおか石油会館5階）
092（282）0908

南西石油　太田武之社長に聞く

総合エネ企業として　地域との共存、融和図る

南西石油（本社・沖縄県西原町）は6月1日から太陽石油の石油製品供給を開始し、沖縄県内のSSや需要家への供給ルートが本格稼動した。同社の太田武之社長は安定供給に全力を尽くすとともに、タンクや広大な敷地の有効活用を進めるうえで、ジェット燃料の取扱いなどを含めて新事業を検討していきたいと抱負を述べた。

——改めて太陽石油にとって南西石油の位置づけをお聞かせください。

元売の経営統合によって供給ルートも集約されるとバーターも減少するだろう。四国に製油所を持つ太陽石油は、西日本地区中心に事業を展開しているが、今後さらにそれを強化するためにも『西シフト』を進めなければならない。そのためにも沖縄は重要な拠点になると位置づけている。

安定供給体制の確立を強調する太田社長

——新会社への移行について。

地元では雇用への不安もあったと聞いているがペトロプラスの退職プログラムに伴い、147人のうち86人が早期退職され、61人が残られた。私を含め太陽石油からの4人が加わって運営している。当面はこの人員・雇用体制で軌道に乗せる。

——ご苦労されたことは。

当初は様々なことがあった。なかでもITインフラ関係の切り替えが大変だった。様々なシステムがペトロプラスにつながっていたが、これを切り離して新たに太陽石油仕様のシステムにしなくてはならない。万一にでも間に合わなかったら安定供給を第一とするターミナル機能がストップし、出荷できなくなる。太陽石油の支援もあり応援部隊に来てもらい懸命に取り組んで、スムーズに移行できた。

——新事業を考えていますか。

幸い沖縄経済は輸出入の増加、国内外からの観光客の増加などで好調だ。今後とも成長が見込まれる。すでに太陽石油は沖縄以外でジェット燃料を供給しているが、沖縄での取り扱いも視野に入れて、油槽所機能の向上に努めたい。

現在、沖縄は那覇市を中心に西部が発展している。しかし、西原町・与那原町で大型コンベンション施設の計画が進むなど、これからは東部地区の発展も望むことができる。広大な工場の敷地を生かして新規事業を展開するのも選択肢の1つと考えている。

——「SOLATO」ブランドでのSS展開、さらに石油精製は考えていますか。

太陽石油としては考えていない。また、すでに公表しているように沖縄での石油精製はしない。設備は廃止する方針は変わらない。

——これからの方針・理念について。

6月1日に太陽石油の四国事業所から無事に初めての石油が到着し、ローリーでの製品の出荷も円滑にスタートした。ひとまず安心したが、南西石油の体制確立にはまだまだすべきことは多い。いまは製品の安定供給体制の構築が急務だ。一方で、太陽石油は「独立自尊、進取積極、共存共栄」を社是としている。社是を基本とし、総合エネルギー企業として地域との共存と融和を図りたい。

1日も早く沖縄に根付き、「南西石油があってよかった」といわれる存在になりたい。

〈太田氏経歴〉

東京都出身。早大政経学部を卒業して「経済の血液である金融の仕事をしたい」と三井住友銀行に入行。日本橋1東法人営業部長から太陽石油顧問に就任。執行役員から常務執行役員になり、2016年南西石油社長（太陽石油常務執行役員兼務）に。座右の銘は「虚心坦懐」。ざっくばらんな話しぶりと明るい笑顔が印象的な59歳。「経済の血液」から「エネルギーの血液」への転身が沖縄のSSを元気にすることを望みたい。

コストコ

8月に北九州へ進出

地元に広がる不安と警戒

会員制倉庫型店を全国展開する「コストコ」は8月、九州初のSSを北九州市八幡西区の北九州倉庫店に併設オープンすることを明らかにしたが、低価格を武器にした独自の経営が市場に影響する可能性は強く、地元のSS業界の間には不安と警戒が広がっている（一部既報）。

SSを併設するコストコ北九州倉庫店

コストコは1976年、米国で創業。「常に経費を節約し、その分を会員に還元する」という方針で、「会員制」を基盤とする強力な購買力と効率化により「可能な限りの低価格」で販売している。

日本では99年、福岡県久山町に「久山倉庫店」を初出店した。同店にはSSは併設していないが、国内では6店でSSを併設。愛知県常滑市では2015年にオープンし、隣接のプライベートブランド（PB）SSとの間で低価格競争を繰り広げ、公取委がコストコSSとPBSSの2社に不当廉売で警告処分を下した。

しかし、競争はその後も続き、愛知石商（宇佐美三郎理事長）が中心となり、不当廉売申告を継続的に実施。岐阜県や富山県などでも低価格販売するコストコSSなどに対し不当廉売で申告するなど警戒を強めている。

コストコが低価格で販売できる理由は「会員制だから燃料油販売の利益は最小限にしても運営できる」という見方が強い。

コストコはSS設備の詳細は明らかにしていないが、複数の計量機を備えたセルフ店になるとみられる。近隣のSSからは「近くのセルフ店は直撃を受けるのではないか」「既設のSSより大幅に安ければ価格に敏感な若い客はかなり奪われるだろう」「商圏から考えると50～60ヵ所のSSが影響を受けるのではないか」という不安の声も出ている。

一方、「久山店のケースから考えると商圏は数十㌔以上もあり、若い人が週末に大量買いをするパターンが多い。北九州店の場合もすぐ近くにある店は影響は避けられないが、影響は広く薄くと考えたほうがよいのでは」という見方もある。

「いずれにしても過当競争で体力を消耗するようなやり方でなく、顧客との信頼関係をもとにした堅実な経営で対抗するしかない」と言うSSが多い。

城南スマートIC9日に開通

九州自動車道

九州自動車道の『城南スマートインターチェンジ（IC）』が9日午後3時に開通する。

同ICは御船ICと松橋IC間に設置。御船ICから5・6㌔、松橋ICからは6・4㌔の地点。上りは市道塚原3号線、下りは市道塚原4号線に接続するために、地域住民や同地域に向かうビジネス客にとっては利便性が増す。24時間運用するが、ETC搭載車しか利用できない。総事業費は約25億円。

ガソリン輸出量前年比11％増加

5月・貿易概況

門司税関が発表した5月の貿易概況によると、揮発油の輸入量は前年同月よりも11％増加し、64万2千㌔㍑。金額ベースでは40％増の238億円に達した。

原粗油は前年同月より8％減少し、246万7千㌔㍑だったが、金額ベースでは26％多い925億円だった。金額ベースでは6ヵ月連続のプラスになった。品目別では輸入品のトップで、石炭、金属鉱・くずが続く。

月間ぜんせき

６月

※＜　＞は掲載日

組　織

◆全石連・石連 トラ協へ満タン運動協力を要請

＜２日＞全石連の浜田忠博副会長（満タン＆プラス１缶運動推進委員長）と加藤文彦専務理事、石油連盟の押尾信明常務理事は５月26日、全日本トラック協会タンクトラック・高圧ガス部会の総会に出席し、トラ協としての運動への協賛を要請した。

◆福島・舟橋商店　災害時一時避難に対応

＜９日＞大災害時に地元住民を受け入れ、生活インフラを提供できるＳＳが郡山市熱海町にオープン。舟橋商店（舟橋俊介代表）本社ＳＳは停電時は自立型の非常用電源や風呂、ガス給湯設備などを備え、20人ほどが寝泊りできる設備を備える。

◆全石連志摩総会・森体制２年目スタート

＜15日＞全石連の通常総会、および全国石油協会の定時総会が15日、三重県志摩市でそれぞれ開催。組合員の経営存続・発展を多角的にサポートする新年度活動方針などを定め、森執行部体制２年目の本格スタートを切る。

◆愛知・常滑の２ＳＳ18回目公取申告

＜21日＞愛知石商（宇佐美三郎理事長）は、常滑市のコストコＳＳとＰＢのバロンパークのガソリン販売価格に不当廉売の疑いがあるとして20日、公正取引委員会に18回目の調査依頼の申告をした。

◆大阪・府に〝満タン運動〟協力要請

＜23日＞大阪石協（安井一男理事長）は20日、大阪府を訪れ『満タン＆灯油プラス１缶運動』への協力や官公需適格組合の活用を強く要請した。

◆兵庫・全石連斡旋商品に反響

＜26日＞全石連共同事業部会（大江英毅部会長）が５月17日に斡旋を開始した自動車用エアコンのメンテナンス装置『エアコンマスター』が早くも兵庫県内のＳＳが導入するなど、大きな反響を呼んでおり、新たな収益源として期待が高まっている。

◆東北支部・〝青年部連合〟設立

＜30日＞全石連東北支部青年部の設立総会を27日仙台市で開催。組織名を「東北石油組合青年部連合」に決定し、部会長に山形石商組織活性化新企画委員長(副理事長)の金山知裕氏を選出、同石商の遠藤靖彦理事長に顧問を委嘱することを決めた。

市　場

◆石連週報・６月１週ガソリン出荷不振

＜９日＞石連週報によるガソリン出荷量は、６月第１週（５月28日～６月３日）が前週比7.9％減、前年比5.5％減の93.4万㌔㍑と２週連続で低迷。過去５年平均比も４％減で、６月は厳しいスタートなった。

◆総務省・81都市5月Ｇ小売132.9円

＜21日＞総務省が先ごろ発表した「自動車ガソリン」の81都市別５月小売価格調査結果（消費税込み）は、全国平均が前月比1.0円安の132.9円と８ヵ月ぶりに前月を下回った。

◆大分県・国内初の木造ＳＳに見学者続々

＜26日＞大分県日田市で昨年12月にオープンした〝国内初の木造ＳＳ〟日田石油販売日田北ＳＳに全国から見学者が訪れている。林業振興の願いが多くの人に伝わるとともに、暖房費が大幅に節約できるなど〝木のぬくもり〟に満ちたＳＳの新しい可能性を感じさせている。

◆16年度・ハイオクレシオ20年間で半減

＜28日＞ハイオクレシオが減少に歯止めがかからない。資源エネルギー庁の資源・エネルギー統計による自動車用ガソリン販売に占めるハイオクガソリン販売の比率は、2016年度平均が前年度比0.3ポイント減の10.4％に落ち込んだ。

政　策

◆消防庁・16年危険物事故が増加

＜７日＞消防庁は５月30日、2016年中（１～12月）に発生した危険物事故状況をまとめた。ＳＳを含む給油取扱所での火災事故は前年に比べ13件増の32件となり、06年（40件）以来の高水準となった。流出事故（油漏洩など）も８件増の69件に増加し、過去５年で最も多かった。

◆国土強靭化プランに満タンと発電機

＜９日＞政府は６日に開いた国土強靭化推進本部（本部長・安倍晋三総理大臣）の会合で「国土強靭化アクションプラン2017」を決定。全石連が提唱して今年から取り組む『満タン運動』の主旨が明記され、住民拠点ＳＳの整備促進や自家発電機の全国的な稼働訓練の実施なども盛り込まれた。

◆エネ庁・中企庁　各府省庁等に要請文

＜21日＞資源エネルギー庁と中小企業庁は14日、資源・燃料部石油流通課長と事業環境部取引課長の連名で、各府省庁と各公庫の中小企業官公需担当課長宛てに、地域の石油組合との災害時における燃料供給協定締結検討と官公需における中小石油販売業者に対する配慮を促す文書を発出した。

カーライフ

◆自工会・東京モーターショーの概要発表

＜５日＞「第45回東京モーターショー2017」（10月27日～11月５日）に国内メーカー14社と、海外メーカー13社19ブランドが出展すると発表。乗用車ではボルボ・カー、二輪車ではハーレーダビッドソンが復帰するほか、商用車ではスカニアが初出展する。

◆５月新車販売台数・10ヵ月連続で前年超

＜28日＞日本自動車販売協会連合会（自販連）と全国軽自動車協会連合会が集計した５月の国内新車販売台数は、登録車が前年比6.1％増の23万８千台となり、10ヵ月連続で前年実績を上回った。

◆パーク24・購入検討「ＥＶ」８％止まり

＜30日＞パーク24がこのほど公表した「ＥＶ」調査結果によると、ガソリン車以外の購入検討については「検討したことはない」69％（うち自動車未保有者は61％）を占め、「ディーゼル車」17％（23％）、「ＥＶ」８％（９％）、「ＰＨＶ」５％（５％）、「水素」１％（２％）となった。

環　境

◆中環審答申・ＶＯＣ自主的取組で対応

＜５日＞環境省中央環境審議会大気・騒音振動部会（畠山史郎部会長）は５月31日開いた会合で、「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について」（第13次報告案）を審議、了承。これによりＳＳにおけるＶＯＣ対策のステージ２導入は、「法的規制によらない業界の自主的取り組み」とすることとし、同日、環境大臣に答申された。

◆環境省など３省・次世代車ガイドを発行

＜９日＞環境省、経済産業省、国土交通省はこのほど、次世代自動車の普及促進を図るための「次世代自動車ガイドブック2016－2017」を発行した。次世代自動車に関する政府決定文書として、「エネルギー基本計画」や、「日本再興戦略2016」などを紹介している。

元　売

◆出光・ＢＯＥ社と提携し有機ＥＬ開発

＜２日＞出光興産は５月24日、BOE Technology Group Co.,Ltd.（本社・中国北京市）と、高性能な有機ＥＬディスプレイ開発のため、有機ＥＬ事業における戦略的提携関係の構築に基本合意した。

◆JXTGエネ・潤滑油販売優秀特約店を表彰

＜28日＞ＪＸＴＧエネルギーは13日、都内のホテルで2016年度全国潤滑油優秀特約店・セールス表彰式を開催、代表者とセールス合計53人を招待、表彰盾を贈呈した。

TMC
TOMINAGA MFG CO
“燃料供給システム”の明日に取組む
人へ。社会へ。未来へ。
～安心・安全をトータルサポート～
緊急災害時用燃料油ポンプ
足こぎ式なので大量給油もスムーズ、ラクラク!
■ 緊急車両への給油
■ 暖房用灯油の注油
■ A重油にも対応
http://www.kyoto-tmc.co.jp
「住民拠点SS整備補助事業」対象製品
洗練された高機能「シンプル＆スタイリッシュ」
AceMulti エースマルチ
■ 視野角の広い高輝度表示器　■ 超軽量・抗菌ノズル　■ 消費電力を抑えた省エネ設計
ワンランク上の「機能×デザイン」
LongAce ロングエース
■ 音声ガイダンス機能　■ ダウンフロー機能　■ 大型表示カウンター　■ 超軽量・抗菌ノズル
「NEXT DESIGN＋NEXT FUNCTION」
Silkyline シルキーライン
■AQUATECT（水検知）機能　■ECOストップ機能　■シグナルランプで給油状態表示　■過量検知機能

株式会社 富永製作所　〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町88　営業本部 ☎(075)801-8139代表 FAX(075)801-0717
仙台営業所 ☎(022)287-9311 FAX(022)287-9312　東京支店 ☎(03)3484-5051 FAX(03)3484-3944
名古屋支店 ☎(052)414-1181 FAX(052)414-1180　関西支店 ☎(0774)41-3443 FAX(0774)41-3444
広島支店 ☎(082)283-2428 FAX(082)283-2606　高松支店 ☎(087)843-7130 FAX(087)843-9139
福岡支店 ☎(092)651-3168 FAX(092)651-3118　事業所・代理店／全国主要39都市